Rotary 週　報　THE ROTARY CLUB OF ARIDA

No.3067

2023-2024年度
会　長　川口健太郎
幹　事　木本　隆昭
ｸﾗﾌﾞ広報小委員長　井上　修平

島 海碩 書

第2640地区
例会日　毎週木曜日 12:30
例会場　紀州有田商工会議所6F
事務所　〒649-0304
有田市箕島33-1
紀州有田商工会議所2F
有田ロータリークラブ
Tel (0737) 82-3128
Fax (0737) 82-1020
創　立　昭和34年6月15日
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://www.aridarc.jp
e-mail　office@aridarc.jp

～ 四つのテスト　言行はこれに照らしてから ～

1．真実かどうか　2．みんなに公平か　3．好意と友情を深めるか　4．みんなのためになるかどうか

Rotary　世界に希望を生み出そう

2023-2024年度クラブ方針
「希望は私たちの原動力！」
～地域に明るい活力を広げよう！～

本日のプログラム

令和６年２月２９日　第３０６８回
・後期IDM発表
・ソング：「それでこそロータリー」

次回のお知らせ

令和６年３月７日　第３０６９回
・会員卓話：岩橋行伸君、橋爪正芳君
「ロータリーと私」
・ソング：「君が代」「奉仕の理想」

前回の報告（第３０６７回例会）

開催日　令和6年2月8日(木)

点　鐘　〔川口会長〕

ゲストの紹介　〔松村SAA〕

ゲスト:下村　祐輝　様
（一般社団法人　しろにし
コーディネーター、地域おこし協力隊）

ニコニコ箱の報告　〔松村SAA〕

川口君:下村祐輝様、ようこそ有田RCへ。本日の卓話よろしくお願い致します。
木本君:一般社団法人　しろにし　下村祐輝様、ようこそ有田ロータリークラブへ。本日の卓話宜しくお願い致します。
成川(守)君:井上君にお世話になりました。ありがとうございました。
上野山(捷)君:下村祐輝様、ようこそ有田RCへお越しくださいました。本日の卓話よろしくお願い致します。
橋爪(正)君:1月3日救急車で別荘へ。長らく休ませて頂き申し訳ありません。
中村君:下村様、ようこそ有田RCへ。卓話宜しくお願い致します。
宮井君:下村祐輝様、ようこそ有田RCへお出で下さいましてありがとうございます。本日の卓話よろしくお願いします。
岩本君:下村先生、遠路卓話御苦労様です。楽しみにしています。
中元君:下村祐輝様、本日の卓話よろしくお願いいたします。
橋爪(誠)君:下村様、ようこそ有田RCへ！本日の卓話よろしくお願いいたします。
井上君:下村様、本日の卓話よろしくお願いします。
児嶋君:下村祐輝様、ようこそ有田ロータリークラブへ。本日の卓話よろしくお願いします。
菅原君:下村様、ようこそ有田ロータリークラブへ。本日卓話宜しくお願い致します。
福原君:下村様、本日卓話よろしくお願いします。
嶋田君:下村様、本日卓話よろしくお願い致します。
山下君:下村様、本日の卓話よろしくお願いします。
松村君:下村様、お話し楽しみにしています。先日は栄作さん、誠治さん、お世話になりました。

出席報告　〔例会運営小委員会　嶋田委員長〕

会員数25名
（出席規定免除会員9名）
出席会員22名
（出席規定免除会員9名）

会長の時間　〔川口会長〕

「染まる」

皆さんこんにちは。本日は一社)しろにしより下村祐輝さま、ようこそ有田ロータリークラブへ後ほど卓話を宜しくお願い致します。今週は寒い日が続きますが、ご参加頂きました会員の皆さまありがとうございます。

さて本日のテーマは「染まる」であります。私は有田青年会議所を卒業しまして、その後特別会員として総会などの連絡が参ります。先日は新年度のスタートである1月定時総会への案内が届きました。案内を見ながらその当時を思い起こしました。28才で何もわからないまま入会し役を頂くごとに少しずつ覚えられ、一時は

仕事もそこそこに会の役割を務めたこともあり、社員からは白い目で見られていたのではないかと思います。しかしながらそこには自分流の大儀があり地域の為、仲間の為と自身の会社への信頼の為があり一生懸命であったと思います。しかしながら青年会議所の会員は若く、不祥事や会社を潰してしまう話はよく聞きました。しかし会員の90％以上が中小企業であり、まじめで実直な方がほとんどであります。

先日来よりニュースで取り上げられています。政治とお金の問題で、先日保釈された池田佳隆氏は、2006年度日本青年会議所会頭を務めていました。私は2006年度の京都国際会議場に向かい会頭の言葉拝聴したのを覚えています。しかしながら国会議員になり、そのシステムに染まって行く様をニュースで拝見し信条よりもノルマであり、その当時の人脈をつたい寄付を募っていたようです。その後も公の場で釈明もなく、後始末の悪さが際立ちます。自身の信条に真っすぐな方と思っていましたが残念です。

私自身も色んなコミュニティーに属すと当初は、どうすれば良いか分らず言われたままを行いそれが正となって行き、また人付き合いが始まります。当クラブは歴史あり正当な理念の基、受け継がれて来たことが「朱に交われば赤くなる」の言葉であり、私たちが属する有田RCは良い色に染まるクラブとなって行きましょう。

幹事報告

〔木本幹事〕

1.第8回定例理事役員会報告
①2月・3月度例会プログラム(案)の件 【承認】
②1月試算表(案)の件 【承認】
③新年家族例会懇親会報告並びに決算について【承認】
2.2月のロータリーレートは1ドル147円です。
3.ロータリーの友事務所より、ロータリー日本100年史正誤表送付の件が届いてます。
後方掲示板にて閲覧願います。
3.田辺東ロータリークラブより週報が届いてます。回覧します。
4.各クラブの例会変更は後方掲示板にて閲覧願います。

ロータリー友誌の紹介

〔クラブ広報小委員会　福原委員〕

【横組】
P.16-P.18

昨年11月に開催されましたロータリー研究会において、100歳を迎えられましたRI元理事の千玄室氏が講話されております。玄室氏の祖先は、皆さんご存知の千利休さんでございます。

講話の中で、ロータリーといえば奉仕であり、奉仕ほど難しいものはない。ロータリアンは自分の表現をとおして、家庭をとおして、奉仕という神髄に手を差し伸べていく、奉仕の実践を、生きている以上しなければならない。また、ロータリーというのは、ご飯を食べて、お話をするだけではない。自分を磨く場所、心を磨く、絆をもつ。そしてみんな手をつなぐ。この素晴らしさを持って日常仕事に励み、人に接し、行動していこう。というメッセージが紹介されています。

わたくしも、今一度、姿勢を正して、前に進んでいきたいと思っている次第です。

P.29　ロータリーアットワークに第2640地区、岩出RCが訪問コンサートを再始動したという記事が掲載されています。

P.37　昨年11月開催されました2640地区大会略報が掲載されております。

縦組は、みなさんまた目を通しておいてください。

委員会報告

※会長エレクト〔中村吉伸君〕
本日、第2回次年度理事会を開催します。
※R財団.米山記念奨学委員会〔中元委員長〕
川口君、中元君よりR財団特別寄付、中元君よりR財団ポリオ寄付を頂きました。有難うございました。
※情報・研修小委員会〔松村委員長〕
後期IDM開催案内

卓　話

下村　祐輝　氏
(一般社団法人　しろにし
コーディネーター、
地域おこし協力隊)

「個の力と輪の力」
続紙参照

閉会・点鐘

〔川口会長〕

例会風景

個の力と輪の力

2024/02/08
一般社団法人 しろにし
コーディネーター　下村 祐輝

01

02

本日のお話

概要

・はじめまして　下村です。
・個の力を求められたベンチャー
・輪の力を求められた中小企業
・キャリア転換のきっかけ
・しろにしとは
・個と輪のシナジー

03

はじめまして
下村です

経歴

1社目：atma株式会社(3年半)
システム開発とAI開発を強みとする会社
エンジニア・営業として従事
在職中にエンジニア・ディレクター業を副業として開業

2社目：工務店(2年)
自社ブランドの営業として入社
初の社内広報として業務の内製化を推進

現在：一般社団法人しろにし
地域おこし協力隊・コーディネーターとして着任

04

スキルが要求されるプロ集団の中での自分の場所

感じた気付き

個の力は単体の戦力

05

01 プロによる指導の機会は貴重

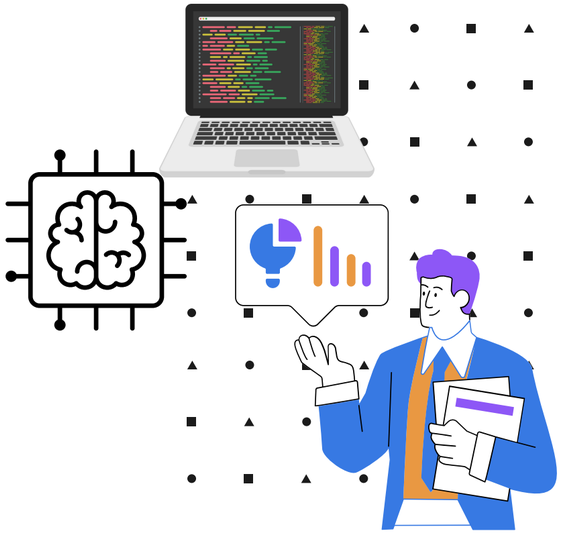
元々情報系の素養や、スキルがあったわけではなく、在学中からインターンシップとしてOJTを通して当時のCTOの方をはじめ周りの方へ支えていただきスキルを磨いていった。
当時こそ気づけていなかったが周りの全員から得るものがある環境は非常に貴重で変え難い機会だった。

02 仕事と趣味の境界の曖昧さ

在職当時は自分以外の全員が趣味でも開発やデータ解析をしている方で、仕事と休みの境界は明確にあるが、休みの中でも業務に近いことを自己研鑽的に実施する方がほとんど。
個々のスキルアップの速度が加速度的。

03 カバー範囲の広さ

個々の能力が高いがゆえに、1人でのカバー範囲が広く、チームプレイが少なく、個人事業主の集まりな動きが強かった。また、特化した領域もそれぞれが持っており、その強みがマッチする案件を中心に対応していた。



輪の力と個の力

06

既存の組織の中で新たな動きを作るため必要だったこと

想定外

07

01 既存の形にとらわれない動きの重要性

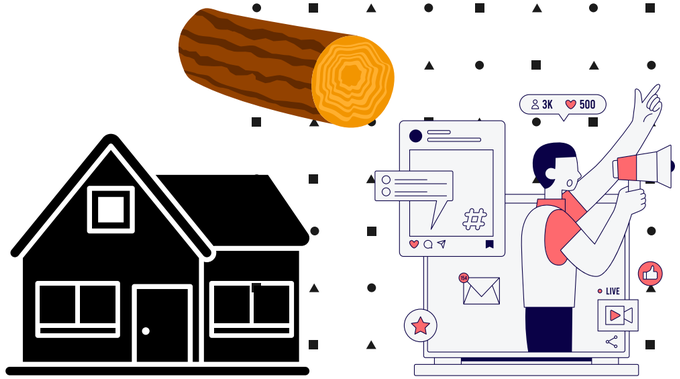
コロナ禍真っ只中の入社であったので社会的な状況が目まぐるしく変化していた。
その中で既存の集客戦略が広告に依存していた結果、集客単価が悪化しており、
組織にノウハウがたまらない状況であった。

02 新規開拓していくのにはチームが不可欠

デザインや広報の内製化、MA導入などを進めていく中で、当時自分一人での取り組みとして始まったが、現場と紐付け、顧客へ波及させていくためには営業をはじめとした、チーム全体での一体となる動きが必要
また、定期的な情報発信などチーム一丸とならないと十分なクオリティでの継続が難しい状況であった

03 検証期間と投資回収のルールメイク

新たな動きを創るには効果検証の期間、投資回収の計画とそれらへ向け、チーム全員の足並みをそろえた動きが必要。



社内スタンドアップミーティング

輪の力は
コミュニティの力

08

輪の力と個の力

漠然と感じていた
自分の課題

スキル・結果だけがストイックに要求される環境でのストレス

1社目では自分の能力不足や、同じ視線のプレイヤー不在により、だんだんと自分のいる価値を見出せなくなっていった。

新たな取り組みに対する気持ちと噛み合わない現実

2社目では様々な既存体制を変更していく動きに多く携わったが、社風に馴染んだ周りのメンバーを牽引することができず、負担に耐えられなくなっていってしまった。

漠然とした焦燥感・自分がしたい仕事

ベンチャーと中小企業色の異なる2社での経験や、個人事業での経験からライスワークとしての仕事を続けることへの不安や意義を見出せずにいた。

09

キャリア転換のきっかけ

大きなきっかけはフリーランスの仲間たちとの出会い。

しろにしのプロジェクトにも関わっていく方々と
仕事を通じて出会い、
有田川へ初めての訪問

しろにしの構想などを聞き漠然と感じていた
自分の居場所を見つけられそうな気がした。

実は縁がある地の有田川

有田川自体はもともとしっかりと知らなかったが、
実は湯浅出身の祖母家系のお墓が吉原に！

また、小学生の頃は清水地域に近い状態の山村部での暮らしも経験しており、幼いながらに漠然と感じていた
地域課題のリアルを知り、自分の力が活かせるのではないかという期待を膨らませてきました。

移住就業支援拠点施設
しろにしの役割

輪の力と個の力

しろにしの役割

01 清水地域を中心とした山間部エリアの寮

人口減少の著しいエリアにおいて、地域を支えている事業を維持するには外からの働き手(20代〜40代)の力が必要となるが、スムーズに住み始めることの出来る賃貸的な物件の確保が難しい。
そのため、まかないが提供できる共同社員寮のものの整備が急務であった。

02 定住の支援

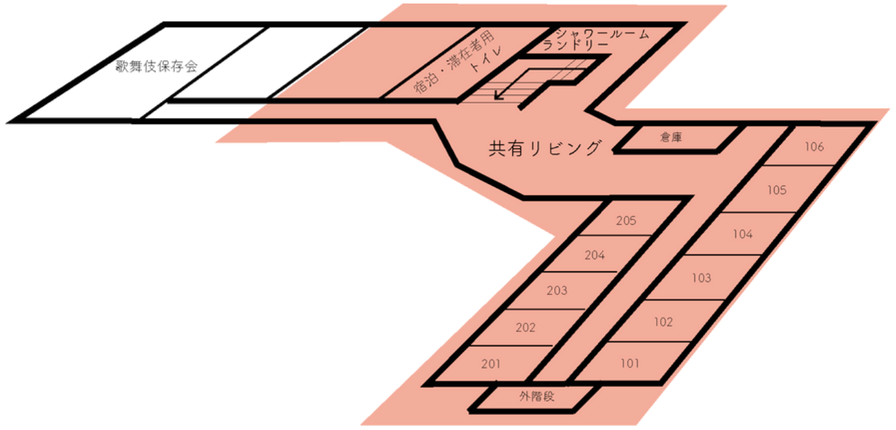
ただ住むだけでは仕事で家を空ける時間が多い就労者は集落で孤立してしまう可能性が高い。孤立することで仕事に少しでもミスマッチを感じると辞めてしまうリスクも高くなってしまう。普段の生活をしていく中で自然と地域の方とのコミュニティに関われるきっかけの創出が求められる。

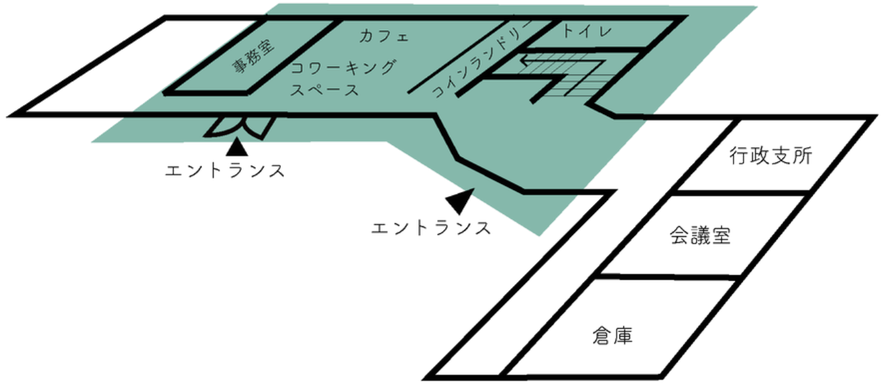
03 地域事業者の支援・地域活性の取り組み

新たな働き手を継続的に雇用するためには、事業者側にも今まで以上に事業を拡大、ないし高付加価値化することで、体力をつけていただき、新規雇用の創出に前向きになっていただく必要がある。

移住就業支援拠点施設「しろにし」

これらの要望、地位木課題解決のために二川にある廃校:城山西小学校をリノベーションし、短期滞在や長期賃貸、地域の方が集うランドリーカフェを併設した複合施設として昨年6月にオープンしました。





個と輪のシナジー

しろにしとしての取り組み
#1 山椒レスキュー

豊作も、取り手不足により窮地

清水エリアの特産品であるぶどう山椒ですが、昨年夏はエリアによりかなり豊作となり、通常8月中旬には終える必要のある収穫が終わる見込みがなくこのままでは今後の収穫量に悪影響を与える恐れがあったためしろにしが主導で山椒レスキューを募集

個人から始まり、チーム戦へ

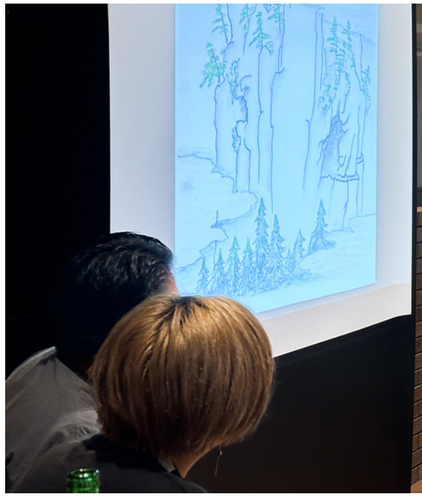
急遽募集したこともあり、最初は個人でのご参加も多かったですが、一度来た方が関係者を連れてきていただいたり、龍谷大学の藤岡ゼミなど清水と関わりを持っていただいていた方々にもご協力をいただきました。

農家さんも含めた協力体制

山椒の畑はみかん以上に険しい山の中へ立地している場所が多く今回ご参加いただいた方は農家の方と協力しあい、農地までの送迎などもしろにしだけではなく農家さんのご協力もいただきながら受け入れを進める体制を作りました。

輪の力と個の力

しろにしとしての
取り組み
#2一次産業
ワーケーションキックオフ



輪の力と個の力

人を受け入れる動きの創出

コロナ禍の中で見直されてきた働き方。
社員のメンタルヘルス向上のための取り組みとして多くの企業がワーケーションへの動きを活発化しています。
しろにしではその受け入れに向けたキックオフイベントとして「裏高野の魅力を語る」と題したトークイベントを開催。

地域の方を中心に
ご協力いただきました。

こちらのイベントでは裏高野の伝承の語り部として白藤様、ゲストとしてしろにしの立ち上げにも関わられた西会津町の矢部様、日本ウェルビーイング推進協議会の島田様、地元のバーテンダーの土田様、龍神丸を製造する高垣酒造様など多くの方のご支援の中盛況を迎えることができました。

しろにしとしての
取り組み
#3地域事業者の支援

HP作成や製品開発支援

様々な事業者がいらっしゃる清水地域を永年支えて来られた方々により活発になっていただくための取り組みとして、広報やブランディングを中心とした支援を行なっています。

清水の土木を支える織本組様

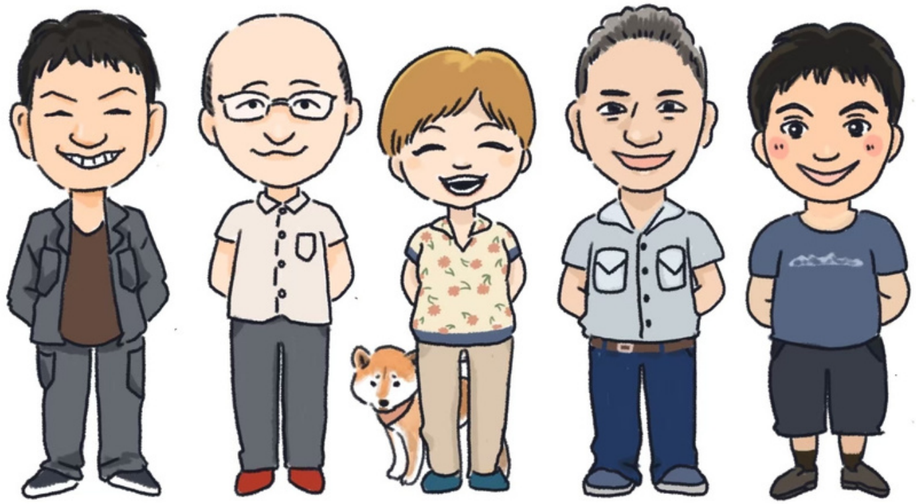
新たな担い手の確保のため、
仕事への想いの言語化、HPへの落とし込みを行い、採用導線の増強を図りました。

清水地域最大規模の事業所
坂口製作所様の商品開発

ステンレスアルミの加工業を営まれる坂口製作所様の新商品開発をコンセプトメイクからプロダクトの設計、プロモーション部分のご支援までを行なっております。(現在制作進行中)

17

個の力
輪の力
両方が必要



応援よろしく
お願いいたします!

しろにしサポーターズについて

しろにしは施設の管理運用だけでなく
ご紹介させていただいたような地域活性の取り組みなど幅広い活動を行っています。
しかし有田地域の活性化を考えた時にしろにしだけで旗振りをしていても大きな効果を生み出すことは難しいのが現実です。
想いにご賛同いただけた方はぜひ、サポーターズとして
今後の活動を応援いただけますと幸いです。

ご清聴
ありがとうございました

本日承れなかったご質問やご意見ございましたら
お気軽にお問い合わせください。

メール　info@shironishi.jp
ホームページ　https://shironishi.jp